

平成19年度 横浜国立大学法科大学院入学試験（A日程）
小論文試験試験問題（試験時間 13：00～16：00）

問題1 以下の文章(1)～(3)を読み、各問に答えなさい。

問1 文章(1)～(3)は、民主制についてそれぞれどのように論じているか、相違点が明らかになるように要約しなさい。(500字程度)

問2 2005年9月に、小泉首相が「郵政民営化に対する国民の意見を聞きたい」として行った「郵政解散」選挙について、文章(二)の民主制論を踏まえて論じなさい。(600字程度)

(注)著作権法等の配慮により問題文は割愛します。

なお、問題文は、次の文献から引用しております。

文章(1)『アメリカのデモクラシー 第1巻(下)』トクヴィル 著 (松本礼二 訳)
(2005年 岩波文庫)
53ページ1行目 ～ 56ページ最終行

文章(2)『ハンス・ケルゼン』鶴飼信成, 長尾龍一 編 (1974年 東京大学出版会)
251ページ15行目 ～ 254ページ最終行

文章(3)『市民と国家』田中美知太郎 著 (1983年 サンケイ出版)
128ページ8行目 ～ 130ページ4行目

問題2 以下の文章を読み、各問に答えなさい。(解答は旧漢字及び旧かなを使う必要はない。)

問1 傍線①について、「それ」の内容に言及しつつ、筆者が何について批判的に述べているか記述しなさい。(200字程度)

(附記) 傍線①とされた部分は以下のとおり。

それにしては、あまりにユーモアが無さすぎる。あるいは苦澁が無さすぎる。

問2 筆者は傍線②のように述べているが、これはなぜか。筆者の考える「もの」と「こと」の関係を踏まえて記述しなさい。(200字程度)

(附記) 傍線②とされた部分は以下のとおり。

私たちには現実を認識することが出来ないということになる。

問3 傍線③の内容はどういうことかを記述し、これを述べた筆者の意図を説明しなさい。(400字程度)

(附記) 傍線③とされた部分は以下のとおり。

これ以上の自己欺瞞はない。が、それもまた一つの、しかも最大の、言葉の詐術であらう。

(注) 著作権法等の配慮により問題文は割愛します。

なお、問題文は、次の文献から引用しております。

『批評家の手帖(福田恆存評論集第七巻)』福田恆存 著 (1966年 新潮社)
9ページ1行目 ~ 13ページ最終行